

質問 当初の計画にあった海外の観光事務所等の誘致について、今後の考えは。

回答 国際的な視点からの誘致については、日本各地でインバウンド需要が復活する中、本市においても多言語対応の案内や支援をより充実させ、国際化を視野に入れた事業展開を市全体で図っていききたい。

質問 生活環境被害を出している有害鳥獣への対策は。

回答 住宅などの生活環境への被害を防止するため、平成30年度から鳥獣捕獲用の箱わなの貸し出しを行っており、令和5年度の捕獲数は18頭だった。また、平成31年度からは箱わなの運搬から設置、回収までの捕獲業務の猟友会への委託も実施しており、令和5年度の捕獲数は70頭だった。

質問 公民館の人と人とのつながりを育む拠点としての役割を強化し、地域づくりセンター(コミュニティセンター)に移行する考えは。

回答 本市の地区公民館は、地域の各種団体と連携し、特色のある事業に取り組んでおり、住民の学習活動を地域づくりに反映させながら地域力を育むという機能を果たしている。今後、地域のための社会教育施設として、地域づくりを進めるための事業に引き続き取り組んでいきたい。

質問 部活動指導員を導出した経緯は。また、各学校での配置状況、指導員への報酬は。

回答 部活動を巡る国や県からの方針に際し、教員の部活動に関わる時間や精神的負担の軽減、部活動の円滑な運営等を目的として導入した。現在61人の指導員が学校の要望に応じて配置され、報酬として1時間当たり1600円、別途交通費が支払われている。

**高崎市都市集客施設
基本計画とその後**



高橋 美奈雄
(市民クラブ)

質問 10年前の基本計画策定以降、中央公民館の移転や子ども関連施設の設置等の変化があり、集客施設としての目的が不透明となっているように思うが、本市の考えは。

回答 市有施設の整備は、市民のための施設とすることが大前提であると考えているが、栄町の再開発事業は集客を目的とした複合ビルであり、高崎のシンボルとなる施設であるため、都市集客施設としての機能を果たせるようテナント誘致や運用面について検討を重ねていく。

**本市のスポーツ施設
有害鳥獣対策**



中村 さと美
(公明党)

質問 近年では危険な暑さが続き、社会体育施設へのエアコン整備が必要だと考えるが、市内の体育館へのエアコン設置の状況は。

回答 本市の体育施設のうち、体育館として位置付けている施設は12館で、このうちエアコンが設置されているのは5館である。避難所の役割を併せ持つ体育館もあり、空調設備の整備は避難者の健康を守る上でも重要と認識しているため、今後研究していききたい。

地域活動活性化の取り組み



横田 卓也
(市民クラブ)

質問 地元の踊りの指導など、町内会活動への功労者を表彰する制度を創出する考えは。

回答 町内会活動への功労者の表彰については、現在の功労者表彰制度との整合性や、町内会活動の活性化にどれほど寄与するかなど、総合的に判断する必要があることから、今後情報収集に努め、研究したいと考えている。

**学校の給食調理場における公務災害
部活動指導員の取り組み**



林 恒徳
(市民クラブ)

質問 本市で発生した公務災害について、過去5年間の発生件数、内容、発生場所は。

回答 公務災害の発生件数は、令和元年度が51件、2年度が61件、3年度が78件、4年度が57件、5年度が81件である。主な内容は転倒などによる打撲や骨折、調理作業中の切り傷・やけど等であり、発生場所は保育所や学校施設が59%、剪定や道路補修等の作業現場が23%、通勤中が12%、事務室等が6%となっている。

高崎だるまミュージアム(仮称)



三井 暢秀
(市民クラブ)

質問 高崎だるまミュージアム(仮称)の外観イメージが発表されたが、建物もたらす効果と景観への制限は。

回答 建物の外観案については、高崎だるまの魅力を広く発信するための特色を持たせることで、施設の認知や集客に大きな効果があるものと考えている。また、建物は、景観計画に定める景観形成基準に沿った形態やデザインとなるよう配慮していきたい。

質問 高崎だるまミュージアム(仮称)の諸室の構成は。また、管理運営をどのようにする考えか。

回答 建設検討会議でまとめた基本構想の中では、体験工房、展示室、ミュージアムショップ、カフェ、多目的室を設置する方針が示されている。諸室の配置や管理手法については、今後、群馬県達磨製造協同組合や高崎観光協会と共に研究していききたい。

学校図書館と高崎市の図書館



宮原 綾香
(たかさぎ未来)

質問 学校図書館は13年前と比較して、小学校で約1700万円、中学校で約1300万円減額され、1校当たりの小学校の図書予算は全国平均の約半分である。子どもの図書について、本市の方針は。

回答 学校では快適な図書環境づくり、市立図書館では子どもが本と触れ合い、読書への興味を育むための機会を提供していきたい。

質問 東口再開発事業は、基本計画が示されてから11年が経過し、計画変更があった。市有施設について、再度、基本計画を市民に示し、パブリックコメントを実施すべきと考えるが、本市の考えは。

回答 計画の変更点は、中央公民館の移転とパブリックゾーンの縮小のみであり、改めて基本構想として公表する予定はない。市有施設の詳細な計画については、法定再開発組合設立後に市民に示したい。

**町内会が設置管理する街路灯
子ども服のリユース**



小野 聡子
(公明党)

質問 経年劣化した街路灯の工事費用や設置者責任など、町内会負担を軽減する考えは。

回答 町内会で設置する街路灯については地理的状况等もあり、設置場所の選定から街路灯の種類、数などを町内会で検討・管理してもらうことを前提としている。引き続き街路灯に関する経費を補助することで負担軽減に努めたい。

質問 子ども服はサイズアウトが早く、翌年には着られなくなるなど、子ども服の購入が経済的な負担になる家庭もある。国の使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業に取り組む考えは。

回答 国の実証事業には先進的な取り組みが求められるため、まずは本市で実績のある子ども服の無料提供活動や古着回収の充実を図りたいと考えている。今後、対象となった実証事業を参考に先進的な取り組みについて研究したい。

高齢者福祉施策の現状



樋口 哲郎
(新風会)

質問 本年6月に開所した高齢者福祉なんでも相談センターの概要と相談内容は。

回答 センターでは一般的な総合相談のほか、司法書士などの専門相談も受け付けており、8月末日までに356件の相談があった。相談内容は、受けられる介護サービスや支援に関する相談のほか、施設入所や相続の問題など多岐にわたる。今後は、利用者の反応を見ながら専門相談のメニューを追加していきたい。

質問 高齢者世帯買い物SOSサービス事業の開始から1年が経過したが、現在の登録世帯数と利用状況は。

回答 令和6年8月末現在、登録世帯数は1027世帯、利用件数は758件である。利用者からは感謝の声を数多くいただいております。今後もサービスの拡充を図っていくとともに、多くの人に活用されるよう周知していききたい。